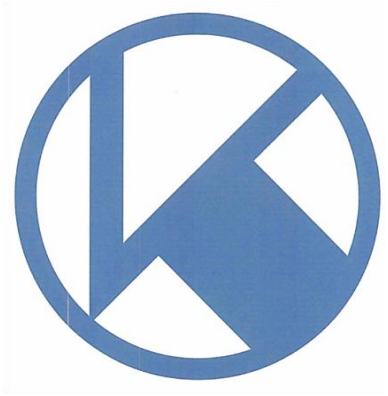
2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要



作業療法学科
3年生

学校法人こおりやま東都学園

作業療法学科　2024年度生　履修一覧

1年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活社会の理解	心理学	●
	法学	●
	社会福祉学	●
	統計学	●
	物理学	●
	化学	●
	保健体育	
	外国語（英語）	
	コミュニケーション論	●
人体の構造と機能　及び心身の発達	解剖学Ⅰ	●
	解剖学Ⅱ	●
	人体の構造と機能	●
	生理学Ⅰ	●
	生理学Ⅱ	●
	生理学実習	●
	運動学Ⅰ	●
	人間発達学	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	公衆衛生学概論	●
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	●
	看護・介護概論	
基礎作業療法学	基礎作業療法学	●
	作業療法概論	●
	作業療法演習Ⅰ	
	作業療法演習Ⅱ	
地域作業療法学	生活環境論	●
作業療法管理学	医療倫理・職業倫理	●

2年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤人間と生活　社会の理解	医療英会話	
人体の構造と機能　及び心身の発達	解剖学実習	●
	運動学Ⅱ	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	●
	臨床心理学	●
	内科学	●
	整形外科学	●
	神経内科学	●
	精神医学	●
	小児科学	●
	老年学	●
	薬理学	●
	内部障害学	●
	疾病と障害の成り立ち	●
基礎作業療法学	応用作業療法学	●
	作業療法演習Ⅲ	
	作業療法研究法Ⅰ	●
作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	●
	作業療法評価学Ⅱ	●
	作業療法評価学Ⅲ	●
作業療法治療学	日常生活技術論	●
地域作業療法学	レクリエーション（選択必修）	
	障害者スポーツ（選択必修）	
臨床実習	見学実習	

3年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	理学療法概論	
	言語療法概論	
基礎作業療法学	作業療法研究法Ⅱ	●
作業療法評価学	作業療法評価演習	
作業療法治療学	日常生活技術演習	●
	精神科作業療法治療学	●
	義肢・装具学	●
	高次脳機能治療学	●
	老年期作業療法学	●
	発達障害作業療法学	●
	内部障害作業療法学	●
	中枢神経系作業療法学	●
	末梢神経系作業療法学	●
	臨床作業療法学	●
地域作業療法学	地域作業療法学	●
	福祉住環境論	●
臨床実習	臨床実習Ⅰ	

4年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
基礎作業療法学	総合演習Ⅰ	●
	総合演習Ⅱ	●
作業療法管理学	作業療法管理学	●
臨床実習	在宅リハビリテーション実習	
	臨床実習Ⅱ	

1. 基礎分野

2. 専門基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
理学療法概論	増子 就斗 病院(理学療法士)10年勤務	3年生担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	前期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

多職種が連携して行うチーム医療実践のため，リハビリテーション専門職の一員である理学療法士の主な仕事について理解する.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 理学療法士の職域について説明できる. ② 理学療法士が関わることの多い疾患の理学療法について説明できる. ③ 理学療法と併用されることの多い主な手段について説明できる.	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】 配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	理学療法士の職域	理学療法士の職域について学ぶ. 理学療法士の仕事と現状について概要を説明できる.	個人
2	脳血管疾患の理学療法	脳血管疾患に対する理学療法について学ぶ. 脳血管疾患の理学療法について説明できる.	個人
3	義肢・装具	下肢の義肢・装具について学ぶ. 義肢・装具の種類と理学療法について説明できる.	個人
4	大腿骨近位部骨折術後および 変形性関節症術後の理学療法	大腿骨近位部骨折術後の理学療法について学ぶ. 大腿骨近位部骨折術後の理学療法について説明できる.	個人
5	物理療法	物理療法について学ぶ. 物理療法の種類と使用目的について説明できる.	個人
6	脊髄損傷の理学療法	脊髄損傷に対する理学療法について学ぶ. 脊髄損傷に対する理学療法について説明できる.	個人
7	呼吸・循環器疾患の理学療法	呼吸・循環器疾患の理学療法について学ぶ. 呼吸・循環器疾患に対する理学療法について説明できる.	個人
8	内部障害の理学療法	内部障害に対する理学療法について学ぶ. 内部障害に対する理学療法について説明できる.	個人
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	筆記試験	評価方法	小テスト 60%	受講態度 40%

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	標準理学療法学 専門分野 理学療法概説 （医学書院） PTOTビジュアルテキスト 理学療法概論 （羊土社）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業のテーマについて要点をまとめておきましょう.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
言語療法概論	中村　くみ子・髙橋　幸子	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業・理学療法学科	3	前期	8(15)	講義	1

【授業の概要・目的】

言語障害，高次脳機能障害，聴覚障害，摂食嚥下障害など臨床症状を理解し，言語療法や嚥下治療の概要を学ぶ．また「コミュニケーション」についてより理解し，作業療法場面への応用を学ぶ．

【学習目標(到達目標)】

①「言語」の持つ身体・生理学的特徴，個体発生上の特徴，心理的・精神的，対人
②言語障害の多様性を知る
③治療的介入についての概要を学ぶ
④
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】講義には演習もありますので積極的に参加するようにしてください．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	言語聴覚療法総論　中村	言語聴覚士の歴史・定義・職務・職域・対象障害・言語の役割・コミュニケーションとは・連携	個人・ペア・グループ
2	失語症　髙橋	失語症について：症状・評価・訓練・COMの図り方	個人・ペア・グループ
3	高次脳機能障害　髙橋	高次脳機能障害について：症状・評価・訓練・関わり方	個人・ペア・グループ
4	構音障害　髙橋	構音障害について：運動性構音障害の症状・評価・訓練・COMの図り方	個人・ペア・グループ
5	その他のコミュニケーション障害　髙橋	音声障害，喉頭摘出，聴覚障害について：症状・評価・代替手段・COMの図り方	個人・ペア・グループ
6	摂食・嚥下障害①(成人)　髙橋	摂食・嚥下障害について：症状・評価・訓練・チームアプローチ・実習	個人・ペア・グループ
7	摂食・嚥下障害②(小児)　中村	摂食機能の獲得過程・症状・評価・指導・介助方法・実習	個人・ペア・グループ
8	小児期の言語障害　中村	言語障害の種類・症状・評価・指導・COMの図り方	個人・ペア・グループ
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	随時，配布資料
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義の際に伝えます

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

3. 専門分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法研究法Ⅱ	内柴　佑基	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

作業療法士は研究という手法を通して、臨床実践を効率的に改善していく責任がある。そこで本講義では研究の骨組み、研究手法、データの解析等を学び、実際に研究を実践し理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①研究について，研究のプロセスを説明できる	前に踏み出す力
②研究の構造(PICO・PECO)について説明できる	考え抜く力
③研究計画の立て方を説明できる	情報活用能力
④定量を何によって「はかるか」、定性をどのように「まとめるか」について説明できる	問題解決力
,	論理的思考力

【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	グループワーク 1	作業療法研究法Ⅰの研究計画のブラッシュアップと実験・調査予定の計画を準備する	グループ
2	グループワーク 2	作業療法研究法Ⅰの研究計画のブラッシュアップと実験・調査予定の計画を準備する	グループ
3	グループワーク 3	予備実験(予備調査) 予備実験等を準備する	グループ
4	グループワーク 4	予備実験(予備調査) 予備実験等を準備する	グループ
5	グループワーク 5	予備実験(予備調査) 予備実験等を準備する	グループ
6	グループワーク 6	予備実験(予備調査) 予備実験等を準備する	グループ
7	グループワーク 7	中間報告 これまでの研究の進捗を説明する	グループ
8	グループワーク 8	本実験(本調査) 研究計画に基づいた実験(調査)を準備する	グループ
9	グループワーク 9	本実験(本調査) 研究計画に基づいた実験(調査)を準備する	グループ
10	グループワーク 10	本実験(本調査) 研究計画に基づいた実験(調査)を準備する	グループ
11	グループワーク 11	本実験(本調査) 研究計画に基づいた実験(調査)を準備する	グループ
12	グループワーク 12	データの解析 データの集計および統計処理を準備する	グループ
13	グループワーク 13	考察と発表会準備 データ改正結果から考察と発表用資料を準備する	グループ
14	グループワーク 14	考察と発表会準備 データ改正結果から考察と発表用資料を準備する	グループ
15	発表会	結果の発表と討論 グループワークの結果を発表し，研究結果を説明する	グループ

期末試験	なし	評価方法	発表会の結果 50% 授業への貢献 50%

【教科書】	研究の育て方(医学書院)
【参考書】	作業でつくるエビデンス(医学書院)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】医学雑誌やJ-stage、PubMEDなどを活用して医学論文に触れること

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
作業療法評価演習 ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井　純子[1)]、内柴　佑基[2)] 1)病院6年　2)病院7年　3)病院7年　※作業療法士として勤務	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	前期	15(30)	演習・実習	1

【授業の概要・目的】

医療専門職は知識だけでなく、対象者と関わるうえで態度や人間性、遂行する技術が必須となる。本講義では演習を通して前述する技能の習得を目的に、対象者への説明、実習指導者との関係、基本的な評価の実施を包括的に学習する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①対象者へ評価の説明が実施できる	考え抜く力
②指導者への報告・連絡・相談ができる	チームで働く力
③実習生として望ましい態度で関わることができる	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④評価を行う根拠を説明できる	コミュンケーションスキル
⑤指導者の助言、見守りのもと、一連の評価を遂行することができる	統合的学習体験

【履修上の注意】演習が中心であり、実学としての視点や効率的な方法などをしっかり学ぶこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーションとリスク管理	臨床実習において実習指導者や対象者との望ましい関係を築き、リスク管理を行いながら学生らしい行動で評価を実践できる	グループ
2	症例1　脳血管障害急性期 バイタル測定	脳血管障害急性期のバイタルチェックの内容を理解し実践できる	グループ
3	症例1　脳血管障害急性期 関節可動域測定	片麻痺患者の関節可動域について、注意点や技術を身につけて実践できる	グループ
4	症例1　脳血管障害急性期 形態計測・反射検査	片麻痺患者の身体状況について、注意点や計測技術、反射検査を身につけて実践できる	グループ
5	症例2　脳血管障害回復期 筋力測定	片麻痺患者の筋力測定について、注意点や測定技術を身につけて実践できる	グループ
6	症例2　脳血管障害回復期 BRS	脳血管障害による片麻痺のBrunnstromeStageについて理解し評価実践できる	グループ
7	症例2　脳血管障害回復期 感覚検査	感覚検査について理解して実施する	グループ
8	症例3　運動失調 高次脳機能障害の推測	高次脳機能障害を理解し、面接所見から評価・推測することができる	グループ
9	症例3　運動失調 ADL評価	移乗・更衣動作の介助、観察からADLの評価を実践できる	グループ
10	症例3　運動失調 ADL評価	食事・整容動作の介助、観察からADLの評価を実践できる	グループ
11	症例3　運動失調 バランス評価	平衡機能を理解しTUG、FRT、FBSによる評価を実践できる	グループ
12	症例3　運動失調 動作、歩行分析	姿勢、歩行分析のポイントと記録の仕方について理解し実践できる	グループ
13	症例4　精神疾患 療法士面接	基本的なコミュニケーションの技術を身につける　COPM、MTDLPによる聞き取りを実践できる	グループ
14	症例4　精神疾患 観察による評価	観察による精神疾患の評価を理解し実践できる	グループ
15	評価演習のまとめ	臨床実習に活かせる評価を理解して実践できるよう学習する	グループ
期末試験	客観的臨床技能試験(OSCE)	評価方法　受講態度 50%　OSCE 50%	

【教科書】	特になし
【参考書】	資料を講義時に配布する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	実技実習室を予約してある時間を使って、課題の予習・復習に取り組むこと		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
日常生活技術演習(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井　俊介 病院勤務(作業療法士)11年勤務	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

正常なADL動作を理解し，逸脱している動作および運動を抽出できるようになる．動作分析結果を解釈し原因について指導法を習得できる．IADL動作について作業分析ができ，応用アプローチや社会適応アプローチが実践できる．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①正常なADL動作が理解できる． ②疾患や障害を持つ対象者のADL動作が分析できる． ③逸脱する理由を列挙し，評価結果に基づいて妥当な解釈を行うことができる． ④逸脱している動作について解決するための方法を考えることができる． ⑤原因に合わせた動作指導が実践できる．	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 統合的学習体験 論理的思考力

【履修上の注意】演習が中心になりますので動きやすい服装で，バインダーと携帯電話を必ず持参するようにしてください．

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	講義オリエンテーション	作業分析・動作分析・運動分析の復習ができ，それぞれの差異について説明できる．	グループ
2	ADLの定量的評価	FIMおよびBIについて内容を復習し知識を確認できる．事例に基づいて妥当な評定をつけることができる．	グループ
3	基本姿勢	基本姿勢の定義および姿勢観察のポイントを理解でき，疾患・障害を持つ方の姿勢観察ができる．	グループ
4	起居動作分析①	寝返りおよび起き上がりに必要な動作要素および運動が理解できる．	グループ
5	起居動作分析②	起居動作の観察した内容から原因を列挙することができ，妥当な指導を選択できる．	グループ
6	移動動作分析①	歩行動作に必要な動作要素および必要な運動が理解できる．逸脱しやすい点が理解できる．	グループ
7	移動動作分析②	歩行動作の観察した内容から原因を列挙することができ，妥当な指導を選択できる．	グループ
8	移乗動作分析①	移乗動作に必要な動作要素および必要な運動が理解できる．逸脱しやすい点が理解できる．	グループ
9	移乗動作分析②	移乗動作の観察した内容から原因を列挙することができ，妥当な指導を選択できる．	グループ
10	更衣・整容動作分析①	更衣・整容動作に必要な動作要素および必要な運動が理解できる．逸脱しやすい点が理解できる．	グループ
11	更衣・整容動作分析②	更衣・整容動作に必要な動作要素および必要な運動が理解できる．逸脱しやすい点が理解できる．	グループ
12	トイレ動作分析①	トイレ動作の観察した内容から原因を列挙することができ，妥当な指導を選択できる．	グループ
13	トイレ動作分析②	トイレ動作の必要な動作要素および必要な運動が理解できる．逸脱しやすい点が理解できる．	グループ
14	食事動作分析①	食事動作の必要な動作要素および必要な運動が理解できる．逸脱しやすい点が理解できる．	グループ
15	食事動作分析②	食事動作の必要な動作要素および必要な運動が理解できる．逸脱しやすい点が理解できる．	グループ

期末試験	筆記試験(国家試験形式)	評価方法	課題の達成度 50%
			受講態度 50%

【教科書】	PT OTビジュアルテキストADL　第2版 羊土社
【参考書】	特に定めない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】症例動作分析の動画を観て動作分析を毎回予習課題として提出して頂きます．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
日常生活技術演習(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井　俊介 病院勤務(作業療法士)11年勤務	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

疾患・障害による日常生活活動の特徴を理解し説明できる. 疾患・障害によって起きる日常生活活動の特徴に応じた指導内容および自助具選択の原則が理解でき実践できる.

【学習目標(到達目標)】

①疾患・障害に応じた日常生活活動の特徴を理解し説明できる.
②MTDLPを活用したアセスメントができる.
③MTDLPを活用して応用的プログラム・社会適応プログラムを立案できる.
④対象者に合わせて指導方法を修正することができる.
⑤疾患・障害に応じた動作指導・自助具選択・環境設定ができる.

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
統合的学習体験
論理的思考力

【履修上の注意】演習が中心になりますので動きやすい服装で, バインダーと携帯電話を必ず持参するようにしてください.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	生活行為向上マネジメント(MTDLP)①	生活行為向上マネジメントの構成要素・使用方法について理解できる.	グループ
2	生活行為向上マネジメント(MTDLP)②	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPアセスメントシートを作成し, 分析できる.	グループ
3	治療プログラム立案①	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPに基づき応用的・社会適応プログラムを立案する.	グループ
4	治療プログラム立案②	評価実習Ⅰ期で担当した事例についてMTDLPに基づき応用的・社会適応プログラムを立案する.	グループ
5	事例報告①	立案した応用プログラムと社会適応プログラムを共有・ディスカッション, 修正する.	グループ
6	事例報告②	立案した応用プログラムと社会適応プログラムを共有・ディスカッション, 修正する.	グループ
7	整形外科事例演習①	整形外科疾患の事例について情報共有, ディスカッションし, ADL・IADLプログラムを立案できる.	グループ
8	整形外科事例演習②	立案したADL・IADLプログラムについて, 対象者への説明用資料が作成できる.	グループ
9	整形外科事例報告	立案した応用プログラムと社会適応プログラムを実演, 共有, ディスカッションし, 修正できる.	グループ
10	脊髄損傷事例演習①	脊髄損傷の事例について情報共有, ディスカッションし, ADL・IADLプログラムを立案できる.	グループ
11	脊髄損傷事例演習②	立案したADL・IADLプログラムについて, 対象者への説明用資料が作成できる.	グループ
12	脊髄損傷事例報告	立案した応用プログラムと社会適応プログラムを実演, 共有, ディスカッションし, 修正できる.	グループ
13	慢性関節リウマチ・脊髄小脳変性症・パーキンソン病①	各疾患について, ADL・IADL指導法を他のグループに説明できる.	グループ
14	慢性関節リウマチ・脊髄小脳変性症・パーキンソン病①②	各疾患について, ADL・IADL指導法をジグソー学習し説明できる.	グループ
15	慢性関節リウマチ・脊髄小脳変性症・パーキンソン病　事例報告	応用プログラムと社会適応プログラムを実演, 共有, ディスカッションし, 修正できる.	グループ
期末試験	筆記試験(国家試験形式)	評価方法	課題の達成度 50% 筆記試験 50%

【教科書】	PT OTビジュアルテキストADL　第2版 羊土社
【参考書】	特に定めない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義の時間内で課題が終わるようにしています. 効率的に時間を使用してください.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
精神科作業療法治療学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	羽川　孝幸 病院(作業療法士)7年勤務	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

精神障害領域の作業療法及び、関係する精神科リハビリテーションについて理解を深める。各精神疾患の具体的な作業療法の評価、介入について理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①疾患と治療時期に応じた作業療法の組み立てを説明できる	知識・理解
②精神科作業療法の評価と実践について説明できる	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③治療技術として精神科リハビリテーションの各種技法を説明できる	統合的学習体験
④事例をもとに評価のポイント、目標設定、介入について説明できる	問題解決力
⑤	論理的思考力

【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	統合失調症の理解と作業療法　1	統合失調症の疾患特性と一般的な治療を理解する 精神障害における薬物療法を理解する	個人
2	統合失調症の理解と作業療法　2	疾患の特性と病期における評価と作業療法の目的、介入について理解する	個人
3	統合失調症の理解と作業療法　3	疾患の特性と病期における評価と作業療法の目的、介入について理解する	個人
4	パラレル作業療法	パラレルな作業療法の特徴と効果について理解する パラレルな作業療法での意図したかかわりについて理解する	個人
5	集団作業活動	集団作業活動の特徴と効果について理解する 集団作業活動での意図したかかわりについて理解する	個人
6	認知リハビリテーション(NEAR、SCIT、MCT)	神経認知の訓練を行うNEAR、社会的認知の訓練を行うSCIT、メタ認知の訓練を行うMCTについて理解する	個人
7	認知行動療法	認知行動療法について、代表的なうつ病の認知療法とコラム法について理解する	個人
8	生活技能訓練(SST)演習	社会学習理論について理解し、社会生活技能に介入するSSTについて理解する	個人
9	心理教育と家族心理教育	教育モデルによる心理教育の現状について理解する EBPとNBPをつなぐ技術について考察する	個人
10	元気回復行動プランとピアカウンセリング	セルフコントロール・セルフヘルプとして代表的なWRAPと、当事者によるピアカウンセリングについて理解する	個人
11	IMRとACT・IPS	リカバリーを志向するプログラムであるIMRについて理解する 重度障害であっても対応するACTとIPSについて理解する	個人
12	べてるの家と当事者研究	ソーシャルキャピタルの視点から、べてるの家というコミュニティと当事者研究という手法を理解する	個人
13	PBL(事例A)1	施設内維持期の事例Aをもとに、評価の視点、目標設定、プログラム立案について理解する	個人
14	PBL(事例A)2	施設内維持期の事例Aをもとに、評価の視点、目標設定、プログラム立案について理解する	個人
15	PBL(事例A)3	施設内維持期の事例Aをもとに、評価の視点、目標設定、プログラム立案について理解する	個人
期末試験	前期期末試験	評価方法　筆記試験　100%	

【教科書】	主観的感覚と生きづらさに寄り添う(メディカルビュー) 生活を支援する精神障害作業療法(医歯薬出版)
【参考書】	図説　精神科リハビリテーション(中央法規出版)／はじめての認知療法(講談社) 精神障害と作業療法(三輪書店)／もう少し知りたい統合失調症の薬と脳(日本評論社)
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	配布される国家試験問題を通して理解を深めること
【本講義に関しての質問先】	担当教員　【質問方法】　教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
精神科作業療法治療学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	羽川　孝幸 病院(作業療法士)7年勤務	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

精神障害領域の作業療法及び、関係する精神科リハビリテーションについて理解を深める。各精神疾患の具体的な作業療法の評価、介入について理解する.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①疾患と治療時期に応じた作業療法の組み立てを説明できる	知識・理解
②精神科作業療法の評価と実践について説明できる	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③治療技術として精神科リハビリテーションの各種技法を説明できる	統合的学習体験
④	問題解決力
⑤	論理的思考力

【履修上の注意】分からない点は講義内で質問し、予習・復習を含め主体的な学習をすること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	気分障害の理解と作業療法　1	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する	個人
2	気分障害の理解と作業療法　2	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する リワークデイケアについて理解する	個人
3	神経症性障害の理解と作業療法　1	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する	個人
4	神経症性障害の理解と作業療法　2	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する	個人
5	パーソナリティ障害の理解と作業療法　1	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する	個人
6	パーソナリティ障害の理解と作業療法　2	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する	個人
7	てんかんの理解と作業療法	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する	個人
8	知的障害の理解と作業療法	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する	個人
9	摂食障害の理解と作業療法	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する	個人
10	依存性疾患の理解と作業療法	疾患の特性と評価、作業療法の目的、介入について理解する	個人
11	入院医療の作業療法	入院医療における対象者の現状と作業療法を理解する	個人
12	精神科作業療法における実際 (事例検討:入院)	精神科作業療法介入を実際に行った事例を基に介入の組み立ての仕方および転帰、他職種との連携などを理解する	個人
13	地域医療の作業療法	地域医療における対象者の現状と作業療法を理解する	個人
14	精神科作業療法における実際 (事例検討:地域)	精神科作業療法介入を実際に行った事例を基に介入の組み立ての仕方および転帰、他職種との連携などを理解する	個人
15	精神科作業療法における実際 (まとめ)	精神科作業療法介入の入院から地域支援における役割およびライフステージに応じた介入について理解する	個人
期末試験	後期期末試験	評価方法　筆記試験　100%	

【教科書】	最新作業療法学講座　精神障害作業療法学(医歯薬出版) 精神科病院を出て、町へ(岩波書店)／主観的感覚と生きづらさに寄り添う(メジカルビュー社)
【参考書】	図説　精神科リハビリテーション(中央法規出版)／はじめての認知療法(講談社) もう少し知りたい統合失調症の薬と脳(日本評論社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】配布される国家試験問題を通して理解を深めること

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
義肢・装具学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	高野 真一 病院（作業療法士）7年勤務	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

切断等の身体外傷についての知識を身につけ，義肢・装具・補装具等のハード面の知識及び，各疾患ごとの補装具について学習を進める．

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①切断者に関する障害像，生活を理解する． ②義肢・装具・補装具について特性を理解する． ③各疾患における義肢・装具の種類や役割について理解する．	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験

【履修上の注意】国家試験、実習に向けた内容となります。想起・引用を想定した講義参加をしてください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	義肢装具学ガイダンス	切断者・義肢使用者に対するOTの理念と役割について理解する	個人
2	義肢総論	切断に関する基礎知識を理解する． Keyword：切断の原因・分類，義手の種類	個人
3	義手の基本構造，分類，部品	各種義手の特性，切断部位別の部品の選定について理解する． Keyword：切断部位の選択，構造，ハーネス，ソケット，継手，手先具	個人
4	能動義手と筋電義手	能動義手，筋電義手について理解を深める． Keyword：構造，部品の選択，力源	個人
5	切断者・義手の評価	各種評価について理解する． Keyword：生活・参加などの評価，適合判定(チェックアウト)	個人
6	義肢の支給制度	公的支給制度について理解する． Keyword：補装具の定義，社会福祉関連，社会保険関連	個人
7	切断者に対する作業療法	義手使用者に対する作業療法，義手訓練について理解する． Keyword：装着前訓練，訓練用義手(処方，作製)，義手操作訓練	個人
8	切断者に対する評価	身体状況，背景を含んだ評価について理解する． Keyword：生活行為向上マネジメント	個人
9	下肢切断，義足	下肢切断に関する基礎知識を理解する． Keyword：切断の原因・分類，各種義足の特徴	個人
10	事例学習①	グループワーク サマリー作成手順に沿って，事例情報を整理できる．	グループ
11	事例学習②	グループワーク サマリー作成手順に沿って，評価の列挙と記録の整理ができる．	グループ
12	事例学習③	グループワーク レジュメ作成手順に沿って，プログラム立案と設定ができる．	グループ
13	上肢装具作製実習①	対象者に合わせたスプリントを作成する． Keyword：デッサン，モデリング，成形	グループ
14	上肢装具作製実習②	対象者に合わせたスプリントを作成する． Keyword：トリミング，リモデリング	グループ
15	科目のまとめ	前期の学習内容のまとめ，統合を行う．	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%	受講態度 10%
			課題の達成度 30%	

【教科書】	義肢装具と作業療法（医歯薬出版）
【参考書】	適時、講義内で紹介する。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	classroomを通じて、事前に資料を配布．予習課題も提示する．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
高次脳機能治療学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	内柴　佑基 病院(作業療法士)7年勤務	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

高次脳機能障害作業療法学における，評価・計画・実施・統合と解釈，治療計画立案ができるようになる.
高次脳機能障害についての特徴や医学的知識，心理学的知識を学ぶ事ができる.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①高次脳機能障害についての概要や特徴を述べる事ができる.	考え抜く力
②高次脳機能作業療法に必要な評価方法を学び，実践する事ができる.	知識・理解
③評価結果を基に，統合と解釈を行い，治療計画立案する事ができる.	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④	論理的思考力
⑤	統合的学習体験

【履修上の注意】神経系解剖学，生理学の復習や資料の見直しをしてください.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	高次脳機能についての概論	高次脳機能の特徴や概要や脳機能の局在について理解する事ができる. 画像診断や神経心理学的検査の意義について理解できる.	個人
2	意識障害と注意障害，半側空間無視 :概要と評価	意識障害・注意障害，半側空間無視の所見や症状，評価方法について理解できる.	個人
3	意識障害と注意障害，半側空間無視 :評価と治療	JCSやGCS，TMT，BITを体験し，結果の解釈を述べる事ができる. ケーススタディを通し介入方法を学び，治療計画立案できる.	グループ
4	記憶障害・見当識障害:概要と評価	記憶障害・見当識障害の所見や症状，評価方法について理解できる.	個人
5	記憶障害・見当識障害:評価と治療	HDS-R，MMSE，RBMTを体験し，結果の解釈を述べる事ができる. ケーススタディを通し介入方法を学び，治療計画立案できる.	グループ
6	失行:概要と評価	失行の所見や症状，評価方法について理解できる.	個人
7	失行:評価と治療	失行のスクリーニング検査を体験し，結果の解釈を述べる事ができる. ケーススタディを通し介入方法を学び，治療計画立案できる.	グループ
8	失認:概要と評価	失認の所見や症状，評価方法について理解できる.	個人
9	失認:評価と治療	失認のスクリーニング検査を体験し，結果の解釈を述べる事ができる. ケーススタディを通し介入方法を学び，治療計画立案できる.	グループ
10	言語障害:概要と評価	言語障害の所見や症状，評価方法について理解できる.	個人
11	言語障害:評価と治療	標準失語症検査(SLTA)を体験し，結果の解釈を述べる事ができる. ケーススタディを通し介入方法を学び，治療計画立案できる.	グループ
12	遂行機能障害:概要と評価	遂行機能の所見や症状，評価方法について理解できる.	個人
13	遂行機能障害:評価と治療	WCST，FABを体験して，結果の解釈を述べる事ができる. ケーススタディを通し介入方法を学び，治療計画立案できる.	グループ
14	社会的行動障害・感情障害 :概要と評価，治療	社会的行動障害・感情障害の所見や症状，評価方法について理解できる. DEX，FBI，SDSを体験し，結果の解釈を述べる事ができる.	個人
15	高次脳機能障害と社会復帰支援	高次脳機能障害支援事業の活用や就労支援について理解できる. 高次脳機能障害に対する運転再開について，理解できる.	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 70%	小テスト 30%

【教科書】	標準作業療法学 専門分野　高次脳機能作業療法学　第2版 （医学書院）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】小テストを行いますので，復習をしてください.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
老年期作業療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井　純子 病院（作業療法士）6年勤務	薄井（純）

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

老年期作業療法の目的・対象・具体的介入内容を理解できる．老年期作業療法実践のための知識および技術を身につけることができる．

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①老年期における作業療法の目的・目標を理解することができる．	知識・理解
②老年期作業療法の土台となる理論を理解し活用することができる．	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③その人らしい生活を援助するための評価・治療技術を身につけることができる．	情報活用能力
④認知症を持つ対象者への評価および介入を実践できる．	論理的思考力
⑤整形疾患のある対象者の評価および治療技術を身につけることができる．	

【履修上の注意】理論的な背景から具体的な介入技術まで幅広く体験しながら学びます．能動的に取り組むようにしてください．

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	老年期作業療法の背景	高齢化社会の実情や課題を説明できる．老年期作業療法の根拠となる社会福祉制度について説明できる．	個人
2	老年期作業療法の対象	老年期作業療法の対象となる高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解し説明できる．	個人
3	「その人らしさ」を尊重する作業療法	役割・生きがい・生活習慣・環境の評価を理解できる．「その人らしさ」を理解する要素について情報収集ができる．	個人
4	認知症の基礎知識①：AD	認知症のタイプ別の基礎知識を理解し説明できる。	個人
5	認知症の基礎知識②：VaD、DLB	認知症のタイプ別の基礎知識を理解し説明できる。	個人
6	認知症の基礎知識③：FTLD、その他	認知症のタイプ別の基礎知識を理解し説明できる。	個人
7	認知症に関連する評価方法	認知症に関連する評価方法や環境、作業療法の目的などを理解し、説明できる．	グループ
8	認知症者と家族の視点と支援方法	認知症者と家族を支援する上で、必要な視点や方法を学び、説明できる。	個人
9	主な認知症と作業療法①	主な認知症の詳細と作業療法について、症例検討を行い、内容を説明・実施することができる．	グループ
10	主な認知症と作業療法②	主な認知症の詳細と作業療法について、症例検討を行い、内容を説明・実施することができる．	グループ
11	主な認知症と作業療法③	主な認知症の詳細と作業療法について、症例検討を行い、内容を説明・実施することができる．	グループ
12	高齢者の病期に応じた治療・援助	高齢期の病期ごとに起こる病態を学び、治療方法や支援方法を学び、説明することができる。	個人
13	老年期症候群と予防医学について	フレイル、サルコペニア、廃用症候群について学び、予防医学に視点からの介入方法について学ぶ	個人
14	老年期の整形外科疾患と作業療法①	高齢者に起こりやすい骨折について学び、評価・介入方法を学び、説明できる。	個人
15	老年期の整形外科疾患と作業療法②	高齢者に起こりやすい骨折について学び、評価・介入方法を学び、説明できる。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 70%
			発表会の結果 30%

【教科書】	標準作業療法学 専門分野　高齢期作業療法学　第3版 （医学書院）
【参考書】	認知障害作業療法ケースブック　疾患別にみる認知症と作業療法 AD，DLB，FTLDを中心に（メジカルビュー社）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】演習内容を振り返り，疑問点をまとめる時間を必ず設けるようにしてください．

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
発達障害作業療法学 (1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	田中絹代 肢体不自由児・発達障害児施設23年勤務(内JICA5年、作業療法士)	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

発達障害児に対する作業療法を実践するために必要な治療理論と原理を学び，子どもと家族の生活に密着した治療目標・治療活動を立案するための基礎的能力を身につける．国家試験科目に該当する．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①正常発達の知識を作業療法の治療に応用できる	考え抜く力
②発達期領域の作業療法「評価」の実際について習得する	知識・理解
③発達障害領域の基本的な「治療的アプローチ」について習得する	問題解決力
④疾患・障害別の評価項目や治療アプローチの基本について習得する	論理的思考力
⑤	創造的思考力

【履修上の注意】1年次の「人間発達学」、2年次の「小児科学」を復習して取り組んでください

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	発達障害領域の作業療法概論①	発達障害の定義，対象疾患，チームアプローチについて理解する．	個人
2	発達障害領域の作業療法概論②	発達障害領域の作業療法評価の概要と流れを理解する．	個人
3	作業療法評価①(動作分析・課題分析)	小児領域のOT遂行機能と遂行要素を理解し、観察場面での評価に活用できる (ADL関連行為)	グループ
4	作業療法評価②(動作分析・課題分析)	小児領域のOT遂行機能と遂行要素を理解し、観察場面での評価に活用できる(学業関連行為)	グループ
5	作業療法評価③(評価バッテリー)	小児領域の評価バッテリー(心身機能・身体構造レベル/活動・参加レベル)を整理し、OT評価に活用できる	グループ
6	作業療法評価⑤(評価のまとめ、立案)	小児領域の評価についてまとめ、事例に合わせた評価計画立案と実施ができる	グループ
7	治療理論と評価・技術①-1	「感覚統合理論」を理解し，JSI-R，感覚プロファイル、JMAP等を用いて感覚運動・認知面の評価ができる	グループ
8	治療理論と評価・技術①-2	「感覚統合理論」を理解し，OT介入方法の基礎を習得する	グループ
9	治療理論と評価・技術②-1	「神経発達学的治療理論」を理解し，原始反射や運動面の評価ができる	グループ
10	治療理論と評価・技術②-2	「神経発達学的治療理論」を理解し、ハンドリングの基礎を習得する	グループ
11	治療理論と評価・技術②-3	「神経発達学的治療理論」を理解し、ハンドリングからシーティング・座位保持装置につなげる	個人
12	治療理論と評価・技術③-1	「応用行動分析理論」を理解し,行動面の評価ができる	個人
13	治療理論と評価・技術③-2	「応用行動分析理論」を理解し,SSTなどコミュニケーションや社会面へのOT介入方法を身につける	個人
14	家族支援	小児領域の生活支援・家族支援について理解する	個人
15	前期のまとめ	前期のまとめを行い、小児領域の評価と治療について説明できるようになる	グループ
期末試験	期末試験	評価方法	筆記試験 70% レポート 30%

【教科書】	標準作業療法学 専門分野　発達過程作業療法学　第3版 (医学書院)
【参考書】	適時紹介します

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習、グループ活動の準備

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
発達障害作業療法学 （2/2） ※ 実務経験のある教員の授業科目	田中絹代 肢体不自由児・発達障害児施設23年勤務（内JICA5年、作業療法士）	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

発達障害児に対する作業療法を実践するために必要な治療理論と原理を学び，子どもと家族の生活に密着した治療目標・治療活動を立案するための基礎的能力を身につける．国家試験科目に該当する．

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①正常発達の知識を作業療法の治療に応用する	考え抜く力
②発達期領域の作業療法「評価」の実際について習得する	知識・理解
③発達障害領域の基本的な「治療的アプローチ」について習得する	問題解決力
④疾患・障害別の評価方法と治療アプローチの基本について習得する	論理的思考力
⑤	創造的思考力

【履修上の注意】 1年次の「人間発達学」、2年次の「小児科学」を復習して取り組んでください

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	作業療法実践②脳性麻痺・重症心身	脳性麻痺・重症心身の特徴をふまえ，作業療法評価，治療プログラム立案，実施の一連の流れについて理解し，実施することができる．（ADLを中心にプログラム立案・実施する）	グループ
2			
3			
4			
5		グループ発表・質疑応答を通して理解を深める	グループ
6	作業療法実践②発達障害	発達障害（自閉スペクトラム症，ADHD，学習障害など）の特徴を理解し，作業療法評価・立案・アプローチについて理解し、プログラム立案、実施準備ができる。	グループ
7			
8			
9			
10		グループ発表・質疑応答を通して理解を深める	グループ
11	治療各論①	脳性麻痺・重症心身の評価と治療について説明ができる	個人
12	治療各論②	デュシャンヌ型筋ジストロフィーの評価と治療について説明ができる	個人
13	治療各論③	分娩麻痺，二分脊椎の評価と治療について説明ができる	個人
14	治療各論④	知的障害・発達障害の評価と治療について説明ができる	個人
15	全体のまとめ	小児領域全体の作業療法評価と介入について説明ができる	個人
期末試験	期末試験	評価方法：筆記試験 70%，発表会の結果 30%	

【教科書】	標準作業療法学 専門分野　発達過程作業療法学　第3版 （医学書院）
【参考書】	適時紹介します

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 グループ活動の準備

【本講義に関しての質問先】 科目責任者　【質問方法】 教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
内部障害作業療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	高野 真一 病院(作業療法士)7年勤務	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

作業療法で関わる内部疾患各々の疾患についての理解は重要である。本講では各疾患の特徴をふまえた作業療法支援について理解を深める。

【学習目標(到達目標)】

①内部疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる.

②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる.

③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する.

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
論理的思考力
情報活用能力
統合的学習体験

【履修上の注意】実習に向けた主要科目となります。覚えるだけでなく、想起・引用を想定した講義参加をしてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	科目ガイダンス	講義の進め方, 事前学習の方法について説明する. 内部疾患の特徴について復習.	個人
2	治療学の基礎1 検査所見と身体所見	各疾患の検査及び身体に関する所見を理解する。	個人
3	治療学の基礎2 吸引 (星)	作業療法士が吸引する意味とアセスメント及びリスクをふまえた手順を理解する。	個人
4	治療学の基礎3 吸引 (星)	作業療法士が吸引する意味とアセスメント及びリスクをふまえた手順を理解する。	個人
5	治療学各論1-1 呼吸器疾患	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する.	個人
6	治療学各論1-2 呼吸器疾患	疾患事例を通して評価の計画について理解する.	個人
7	治療学各論2-1 循環器疾患	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する.	個人
8	治療学各論2-2 循環器疾患	疾患事例を通して評価の計画について理解する.	個人
9	治療学各論3-1 がん	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する.	個人
10	治療学各論3-2 がん	疾患事例を通して評価の計画について理解する.	個人
11	治療学各論4-1 サルコペニアとリハ栄養	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する.	個人
12	治療学各論4-2 サルコペニアとリハ栄養	疾患事例を通して評価の計画について理解する.	個人
13	治療学各論5-1 糖尿病	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する.	個人
14	治療学各論5-2 糖尿病	疾患事例を通して評価の計画について理解する.	個人
15	治療学各論6-1 下部尿路機能障害	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する.	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%	

【教科書】	小林 編:身体障害作業療法学2 内部疾患編(羊土社) 上杉 監:PT・OT入門 イラストで分かる内部障害(医歯薬出版)
【参考書】	浅野 編:なるほどなっとく内科学 改訂第2版(南山堂)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	classroomを通じて、事前に資料を配布.		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
中枢神経系作業療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井　純子 病院(作業療法士)6年勤務	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

中枢性疾患の知識を深めるとともに，障害像を理解し，その評価・治療手段を学ぶ．神経学的に根拠を持った治療概念を展開できる能力を身につける．

【学習目標(到達目標)】

①中枢神経系の疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる．

②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる．

③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する．

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
論理的思考力
情報活用能力
統合的学習体験

【履修上の注意】実習に向けて実践的なアプローチを考えていけるよう中枢系の解剖・生理を復習すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	科目ガイダンス	講義の進め方，事前学習の方法について説明する．脳の解剖,中枢神経と末梢神経の機能について復習．	個人・グループ
2	治療学の基礎1 運動学習	人が学習する基本理論と実践方法について理解する．	個人・グループ
3	治療学の基礎2 行動変容	日常生活上での麻痺手の使用改善に対する意義を理解する．	個人・グループ
4	治療学の基礎3 知覚再教育	感覚，知覚の障害に対する治療理論を理解する．	個人・グループ
5	治療学の基礎4	抑制と促通に力点をおいた治療の基本理論を理解する．	個人・グループ
6	治療学の基礎5 生活行為	MTDLPを使用した基本的な考え方を理解する．	個人・グループ
7	治療学の基礎6 ADLへの支援	ADLに結びつけるための機能的アプローチについて理解する．	個人・グループ
8	治療学の基礎7 ADLへの支援	ADLに結びつけるための機能的アプローチについて理解する．	個人・グループ
9	治療学の基礎8 作業の活用	『作業』に通じた諸症状へのアプローチ，アクティビティの利用について理解する．	個人・グループ
10	治療学の基礎9 作業の活用	『作業』に通じた諸症状へのアプローチ，アクティビティの利用について理解する．	個人・グループ
11	治療学各論1 脳卒中	疾患事例を通して治療，支援の方法について理解する． グループワークテーマ:目標設定と介入プログラム	個人・グループ
12	治療学各論2 脊髄損傷	疾患事例を通して治療，支援の方法について理解する． グループワークテーマ:目標設定と介入プログラム	個人・グループ
13	治療学各論3 神経変性疾患	疾患事例を通して治療，支援の方法について理解する． グループワークテーマ:目標設定と介入プログラム	個人・グループ
14	治療学各論4 神経免疫疾患	疾患事例を通して治療，支援の方法について理解する． グループワークテーマ:目標設定と介入プログラム	個人・グループ
15	治療学のまとめ	事例を通して治療場面の推論の立て方を学ぶ． グループワークテーマ:クリニカルリーズニング，EBOT，治療理論	個人・グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 課題の達成度 20%	

【教科書】	身体機能作業療法学(医学書院)
【参考書】	病気がみえる　脳・神経(メディックメディア)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】生理学、解剖学の教科書も都度参考にしてください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
中枢神経系作業療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	薄井　純子 病院(作業療法士)6年勤務	薄井(純)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	3

【授業の概要・目的】

中枢性疾患の知識を深めるとともに，障害像を理解し，その評価・治療手段を学ぶ．神経学的に根拠を持った治療概念を展開できる能力を身につける．

【学習目標(到達目標)】

①中枢神経系の疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる．

②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる．

③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する．

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
論理的思考力
情報活用能力
統合的学習体験

【履修上の注意】実習に向けて実践的なアプローチを考えていけるよう中枢系の解剖・生理を復習すること

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	治療学各論5	ボバース療法、促通反復療法について理解する． 課題指向型リハビリテーションについて理解する．	個人・グループ
2	治療学各論6 課題指向型リハビリテーション	演習 事例を通して理論についての理解を深め実践する．	個人・グループ
3	治療学各論7 認知運動療法	認知運動療法について理解する． 事例を通じて理論についての理解を深める	個人・グループ
4	治療学各論8 CVA	演習 事例を通して理論について理解を深める．	個人・グループ
5	治療学各論9 CVA	演習 事例を通して理論について理解を深める．	個人・グループ
6	治療学各論10 脊髄損傷	演習 事例を通して理論について理解を深める．	個人・グループ
7	治療学各論11 脊髄損傷	演習 事例を通して理論について理解を深める．	個人・グループ
8	治療学各論12 パーキンソン病	演習 事例を通して理論について理解を深める．	個人・グループ
9	治療学演習1	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。	個人・グループ
10	治療学演習2	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。	個人・グループ
11	治療学演習3	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。	個人・グループ
12	治療学演習4	実践的な介入手法と考え方について、実技・演習を通じて理解する。	個人・グループ
13	治療学演習1 症例検討	事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する．	個人・グループ
14	治療学演習2 症例検討	事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する．	個人・グループ
15	治療学演習3 症例検討	事例を通して各種理論をもとに支援プログラムを検討する．	個人・グループ

期末試験	評価方法		
筆記試験		筆記試験	80%
		課題の達成度	20%

教科書】	身体機能作業療法学(医学書院)
参考書】	病気がみえる　脳・神経(メディックメディア)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	生理学、解剖学の教科書も都度参考にしてください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
末梢神経系作業療法学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	高野 真一[1)]、半谷 智辰[2)] 1) 病院(作業療法士)7年勤務、2) 病院(作業療法士)18年勤務	高野

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

作業療法で関わる末梢神経疾患各々の疾患についての理解は重要である。本講では各疾患の特徴をふまえた作業療法支援について理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①末梢神経系の疾患に対する作業療法の治療概念を説明できる. ②障害に応じた適切な作業療法を展開する方法を提案することができる. ③臨床場面で用いられる各種治療理論を実技を含め経験する.	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 論理的思考力 情報活用能力 統合的学習体験

【履修上の注意】 実習に向けた主要科目となります。覚えるだけでなく、想起・引用を想定した講義参加をしてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	科目ガイダンス 高野	講義の進め方, 事前学習の方法について説明する. 末梢神経疾患の特徴について復習.	個人
2	身体機能への作業療法 高野	医療現場における作業療法について理解をする. Keyword:疾患別リハビリテーション、臨床的推論、2つのアプローチ論	個人
3	治療学の基礎1 関節可動域 高野	関節可動域制限に対する基礎知識, 介入方法について理解する Keyword:構造, 発生要因, 最終域感, 関節可動域練習	個人
4	治療学の基礎2 筋力・筋持久力 高野	筋力低下に対する基礎知識, 介入方法について理解する. Keyword:筋収縮の種類, 測定方法, 筋力トレーニング	個人
5	治療学の基礎3 作業遂行 高野	作業遂行に対する支援について理解する. Keyword:作業遂行における10の側面, 評価方法, 観察, 目標設定	個人
6	治療学各論1 骨折・関節障害 高野	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する. グループワークテーマ:目標設定と介入プログラム	個人
7	治療学各論1 骨折・関節障害 高野	疾患事例を通して評価の計画について理解する. グループワークテーマ:医学的診断, 病態分類など, 評価項目	個人
8	治療学各論2 脊髄損傷 高野	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する. グループワークテーマ:目標設定と介入プログラム	個人
9	治療学各論2 脊髄損傷 高野	疾患事例を通して評価の計画について理解する. グループワークテーマ:医学的診断, 病態分類など, 評価項目	個人
10	治療学各論3 関節リウマチ 高野	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する. グループワークテーマ:目標設定と介入プログラム	個人
11	治療学各論3 関節リウマチ 高野	疾患事例を通して評価の計画について理解する. グループワークテーマ:医学的診断, 病態分類など, 評価項目	個人
12	治療学各論4 末梢神経損傷・腱損傷 高野	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する. グループワークテーマ:目標設定と介入プログラム	個人
13	治療学各論4 末梢神経損傷・腱損傷 高野	疾患事例を通して評価の計画について理解する. グループワークテーマ:医学的診断, 病態分類など, 評価項目	個人
14	治療学各論5 頚椎症・腰痛症 半谷	疾患事例を通して治療, 支援の方法について理解する. グループワークテーマ:目標設定と介入プログラム	個人
15	治療学各論5 頚椎症・腰痛症 半谷	疾患事例を通して評価の計画について理解する. グループワークテーマ:医学的診断, 病態分類など, 評価項目	個人
期末試験	筆記試験 高野	評価方法	筆記試験 80%　受講態度 20%

【教科書】	脳卒中最前線 第4版(医歯薬出版)、標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版(医学書院)、 作業療法士 イエロー・ノート 専門編 2nd edition(メジカルビュー社)、図解作業療法技術ガイド 第4版(文光堂)
【参考書】	適時、講義内で紹介する。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	classroomを通じて、事前に資料を配布. 予習課題も提示する.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床作業療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	内柴　佑基 病院7年(作業療法士)勤務	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

疾患や障害に応じた評価計画の立案について原則を理解し実践できるようになる. 評価の結果に基づき, MTDLPを用いた課題の整理および分析ができる. 分析した結果を統合と解釈し説明できる.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①疾患・障害の基礎知識を説明できる.	知識・理解
②疾患・障害の特徴に応じた評価計画立案ができ, 根拠を説明できる.	情報活用能力
③評価結果をICF,MTDLPアセスメントシートに整理して記載できるようになる.	問題解決力
④評価結果の関係性について論理的に説明できる.	論理的思考力
⑤疾患・障害および対象者の作業遂行文脈を勘案した治療計画の原則が理解できる.	創造的思考力

【履修上の注意】本講義はactive learning方式で臨床に必要な臨床的思考を共有するための積極性が必要です.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	講義ガイダンス	情報収集⇒検査・測定⇒結果の解釈⇒治療計画立案での「臨床的思考過程」の重要性が理解できる.	個人
2	評価の4要素	評価に必要な情報収集・面接・観察・検査(測定)の4つの要素について内容を理解し説明できる.	個人
3	作業を基盤とした治療実践	対象者の「作業」を中心とした治療計画立案の構造が理解できる. 基本的プログラムの内容, 方法が理解できる.	グループ
4	身体障害領域事例① 基本情報	脳血管障害 についての基本的な知識を説明することができる. 評価計画を立案することができる.	グループ
5	身体障害領域事例② 基本情報	脳血管障害 についての基本的な知識を説明することができる. 評価計画を立案することができる.	グループ
6	身体障害領域事例③ 評価計画実践	対象者に立案した評価結果を実践しフィードバックを基に「模倣」レベルまでの検査・測定が実践できる.	グループ
7	身体障害領域事例④ 評価計画実践	対象者に立案した評価結果を実践しフィードバックを基に「模倣」レベルまでの検査・測定が実践できる.	グループ
8	身体障害領域事例⑤ 統合と解釈	対象者の評価結果をICFにまとめ, 課題を整理できる. 課題の関係性を説明することができる.	グループ
9	身体障害領域事例⑥ 統合と解釈	対象者の評価結果をICFにまとめ, 課題を整理できる. 課題の関係性を説明することができる.	グループ
10	身体障害領域事例⑦ 治療計画立案	対象者の作業遂行文脈を考慮した基本的プログラム・応用的プログラム・社会適応プログラムが立案できる.	グループ
11	身体障害領域事例⑧ 治療計画実践	治療計画立案したプログラムについて実践し, フィードバックを受けて修正することで「実施」レベルの準備ができる.	グループ
12	身体障害領域事例⑨ 報告会準備	報告会形式でのレジュメの作成、報告会資料の作成を準備することがができる。	グループ
13	身体障害領域事例⑩ 報告会	報告会形式でのレジュメの作成、報告会資料の作成を行い、発表することができる。	グループ
14	記録作成①	記録の種類, 記載すべき内容を理解することができる. SOAP形式の記録方法を理解し実践できるようになる.	個人
15	記録作成②	記録の種類, 記載すべき内容を理解することができる. SOAP形式の記録方法を理解し実践できるようになる.	個人

期末試験	評価方法			
なし		レポート	50%	受講態度 20%
		課題の達成度	30%	

【教科書】	実習の要点を網羅 作業療法臨床実習のチェックポイント(MEDICAL VIEW) 作業療法技術ガイド根拠と臨床経験に基づいた効果的な実践のすべて 第3版 (文光堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	演習およびグループワーク時に, PC使用します. 持参必須. レポートの遅延なく提出してください		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床作業療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	内柴　佑基 病院7年(作業療法士)勤務	内柴

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

評価の結果に基づいてICF、MTDLPを用いた課題の整理および分析ができる. 分析した結果を統合と解釈し説明できる. 対象者に適合した治療計画が立案できる.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①疾患・障害の特徴に応じた評価計画立案ができ, 根拠を説明できる.	知識・理解
②評価結果をICF,MTDLPアセスメントシートに整理して記載できるようになる.	情報活用能力
③評価結果の関係性について論理的に説明できる.	問題解決力
④疾患・障害および対象者の作業遂行文脈を勘案した治療計画の原則が理解できる.	論理的思考力
⑤対象者に合わせた基本的プログラム立案できる.	創造的思考力

【履修上の注意】本講義はactive learning方式で臨床に必要な臨床的思考を共有するための積極性が必要です.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	精神障害領域事例① 評価計画立案	事例の疾患・障害について理解し説明することができる. 対象者の文脈を踏まえた評価計画立案ができる.	グループ
2	精神障害領域事例② 評価	事例の疾患・障害について理解し説明することができる. 対象者の文脈を踏まえた評価ができる.	グループ
3	精神障害領域事例③ 評価	事例の疾患・障害について理解し説明することができる. 対象者の文脈を踏まえた評価ができる.	グループ
4	精神障害領域事例④ 評価	事例の疾患・障害について理解し説明することができる. 対象者の文脈を踏まえた評価ができる.	グループ
5	精神障害領域事例⑤ 統合と解釈	事例の評価結果に基づいてICFに整理して, 統合と解釈を説明できる.	グループ
6	精神障害領域事例⑥ 統合と解釈	事例の評価結果に基づいてICFに整理して, 統合と解釈を説明できる.	グループ
7	精神障害領域事例⑦ 治療計画立案	事例の統合と解釈に基づいて目標設定を行い, 治療計画を立案できる	グループ
8	精神障害領域事例⑧ 治療計画立案	事例の統合と解釈に基づいて目標設定を行い, 治療計画を立案できる	グループ
9	老年期領域事例① 評価計画立案	事例の疾患・障害について理解し説明することができる. 対象者の作業遂行文脈を踏まえた評価計画立案ができる.	グループ
10	老年期領域事例② 評価計画立案	事例の疾患・障害について理解し説明することができる. 対象者の作業遂行文脈を踏まえた評価計画立案ができる.	グループ
11	老年期領域事例③ 統合と解釈	事例の評価結果に基づいてMTDLPアセスメントシートに課題を整理できる. 課題の関係性を説明できる.	グループ
12	老年期領域事例④ 統合と解釈	事例の評価結果に基づいてMTDLPアセスメントシートに課題を整理できる. 課題の関係性を説明できる.	グループ
13	老年期領域事例⑤ 治療計画立案	対象者の作業遂行文脈を考慮した基本的プログラム・応用的プログラム・社会適応プログラムが立案できる.	グループ
14	老年期領域事例⑥ 報告会準備	報告会形式でのレジュメの作成、報告会資料の作成を準備することががができる。	グループ
15	老年期領域事例⑦ 報告会	報告会形式でのレジュメの作成、報告会資料の作成を行い、発表することができる。	グループ

期末試験		評価方法	レポート	50%	受講態度	20%
			課題の達成度	30%		

【教科書】	実習の要点を網羅 作業療法臨床実習のチェックポイント MEDICAL VIEW 作業療法技術ガイド根拠と臨床経験に基づいた効果的な実践のすべて 第3版 (文光堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	演習およびグループワーク時に, PC使用します. 持参必須. レポートの遅延なく提出してください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
地域作業療法学	田中絹代・羽川孝幸・内柴　佑基	田中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

地域に根差したリハビリテーションにおける作業療法の役割を理解することができる. 地域におけるリハビリテーションアプローチ内容を具体的に実践できる. 地域の特性を把握したリハビリテーション内容を計画することができる.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①Community Based Rehabilitation(CBR)の概念と具体的な実践内容を理解できる.	考え抜く力
②地域における作業療法実践の根拠となる法的制度を理解し説明できる.	コミュニケーションスキル
③地域特性を把握し, 地域特性に見合った支援活動内容について情報収集できる.	情報活用能力
④地域で働くために必要な要素を理解でき, 身につけるための準備ができる.	創造的思考力
⑤就労支援の法的根拠および実践内容について理解できる.	

【履修上の注意】本講義はactive learning方式です. 主体的に参加してください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	地域作業療法・概論①　田中	地域作業療法の歴史、概念、対象者等について説明できる。	グループ
2	地域作業療法・概論②　田中	地域作業療法を支える「制度」と「法規」の概要について説明できる。	グループ
3	地域作業療法・概論③　田中	地域作業療法における連携について説明できる。	グループ
4	高齢者領域の地域作業療法学①　内柴	介護保険制度を理解し、介護老人保健施設や通所リハビリテーションでの作業療法士の役割について理解する。	個人
5	高齢者領域の地域作業療法学②　内柴	介護保険制度で行われている評価や介入方法を学び、理解し実践することができる。	グループ
6	介護予防の地域づくり　内柴	地域の介護予防における事業やサービス、支援方法を学び、説明することができる。	個人
7	介護予防における短期集中的な支援　内柴	短期集中におけるサービスや支援の実際を学び、説明することができる。	グループ
8	地域における移動支援　内柴	移動支援概要や自動車運転評価について学び、説明することができる。	個人
9	精神領域の地域作業療法①　羽川	精神保健福祉法の入院制度について理解する 医療観察法による触法患者の支援について理解する	個人
10	精神領域の作業療法②　羽川	精神科医療における地域での支援について理解する 障害者総合支援法の障害福祉制度を理解する	個人
11	就労支援における作業療法①　羽川	障害福祉制度における福祉的就労について理解する 障害者雇用における公的機関について理解する	個人
12	就労支援における作業療法②　羽川	事例を通じて障害者雇用について理解する どんな障害福祉サービスや支援が適切か理解する	グループ
13	小児領域の地域作業療法①　田中	子どもの地域作業療法(健診、児発、放課後等デイ)の役割、評価、支援の実際について説明できる。	グループ
14	小児領域の地域作業療法①　田中	学校を基盤とした作業療法について説明できる。	グループ
15	まとめ　田中	地域作業療法について説明できる	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 50%	授業への貢献 20%
			受講態度 30%	

【教科書】	地域作業療法学　医歯薬出版株式会社
【参考書】	授業の中で紹介

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義の時間内で課題が終了しなかった場合は時間外に取り組むようにしてください.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
福祉住環境論	薄井　俊介	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

OTの業務に求められる福祉機器および住環境整備の知識を高め、対象者の生活面、社会面への適応について考察を深めることで、作業療法士としてのスキルを養うことを目的とする。

【学習目標(到達目標)】

①福祉住環境整備の意義・役割を理解する。
②障害に応じた住環境整備の進め方を理解する。
③福祉住環境コーディネーター2級程度の知識の習得を目指す。
④得られた知識を作業療法士の業務に結び付けることができる。
⑤

【受講して得られる力】

チームで働く力
知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】疾患・障害の知識、ADL関連の知識を整理したうえで講義に臨むこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	住環境整備の意義①	住環境整備の基本、高齢社会における住環境整備の在り方について学ぶ。	個人
2	住環境整備の意義②	介護保険における住環境整備について理解を深める。	個人
3	住環境整備の進め方と留意点①	住環境整備の進め方について理解する。	個人
4	住環境整備の進め方と留意点②	住環境整備の評価とフォローアップ、OTの役割について理解する。	個人
5	建築知識と移動用福祉用具①	建築知識の基本として、主な建築用語を学ぶ。図面の種類や見かたについて学び、平面図を書けるようになる。	個人
6	建築知識と移動用福祉用具②	住環境整備の基本的配慮について、生活場面別に学び、疾患や障害と結び付けられるようになる。	個人
7	建築知識と移動用福祉用具③	建築関連法規について理解し、疾患や障害と結び付けられるようになる。	個人
8	建築知識と移動用福祉用具④	移動用福祉用具について、その種類や使用方法について学び、理解を深める。	個人
9	疾患・障害別にみる住環境整備①	疾患別・障害別にみる住環境整備の基本的配慮について学び、対象者に結び付けられるようになる。	個人
10	疾患・障害別にみる住環境整備②	疾患別・障害別にみる住環境整備の基本的配慮について学び、対象者に結び付けられるようになる。	個人
11	疾患・障害別にみる住環境整備③	疾患別・障害別にみる住環境整備の基本的配慮について学び、対象者に結び付けられるようになる。	個人
12	疾患・障害別にみる住環境整備④	疾患別・障害別にみる住環境整備の基本的配慮について学び、対象者に結び付けられるようになる。	個人
13	事例検討①	住環境整備の事例検討を行い、理解を深める。	個人
14	事例検討②	住環境整備の事例検討を行い、理解を深める。	個人
15	事例検討③	住環境整備の事例検討を行い、理解を深める。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	OT・PTのための住環境整備論 第3版 （三輪書店）
【参考書】	特に定めない。授業で随時紹介する。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義で伝えきれなかった内容を含め、テキストを用いてそれぞれ復習、整理すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床実習Ⅰ	作業療法学科教員	薄井

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	3	後期	(270)	実習	6

【授業の概要・目的】

学内で学んだ基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識・技術を総合的に活用でき、作業療法実践に必要なアセスメントができるようになる。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①医療人として必要な基本的行動をとれるようになる。	前に踏み出す力
②問題解決に必要な行動、能力を身につける。	知識・理解
③疾患や障害の知識を活用し、対象者に即した評価計画の立案ができるようになる。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
④実習指導者の持つ臨床思考過程を学び、理解して、実践に結び付けられるようになる。	コミュンケーションスキル
⑤	統合的学習体験

【履修上の注意】 指導者や教員への報告や連絡、相談を怠らず、また記録の重要性を理解して臨むこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1w	医療施設及び福祉施設実習	指導者や対象者と適切なコミュニケーションを図り、対象者の情報収集、評価計画立案ができるようになる。	個人
2w	医療施設及び福祉施設実習	対象者への評価を安全かつ正確に行う手段を理解し、理解した内容を模倣や実施につなげることができる。	個人
3w	医療施設及び福祉施設実習	評価結果等を正確に記録し、指導者からのフィードバックを通して、臨床思考過程の理解につなげることができる。	個人
4w	医療施設及び福祉施設実習	指導者や対象者と適切なコミュニケーションを図り、対象者の情報収集、評価計画立案ができるようになる。	個人
5w	医療施設及び福祉施設実習	対象者への評価を安全かつ正確に行う手段を理解し、理解した内容を模倣や実施につなげることができる。	個人
6w	医療施設及び福祉施設実習	評価結果等を正確に記録し、指導者からのフィードバックを通して、臨床思考過程の理解につなげることができる。	個人
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	総合的な評価を行う	評価方法	筆記試験 10%	OSCE 20%
			発表会の結果 20%	実習評価 50%

【教科書】	特に定めない。
【参考書】	1年生からこれまでに使用した教科書全てが参考書となる。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 正確な記録と、1段階深くまで考察するために、教科書・参考書を有効に活用すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	メール連絡	ot-deparrtment@k-tohto.ac.jp